

18. 食道癌の浸潤，転移に関わる新規接着因子，浸潤促進因子の同定

第2外科，病理学（人体分子）

降旗 正，川又 均，橘 昌嗣，藤盛孝博，窪田敬一

【目的】食道癌培養細胞（T.Tn）を用いて食道癌のリンパ節転移に関与する因子を検索する。T.Tn細胞はヌードマウスでの腫瘍原性が低く，転移能を有さない。本研究ではT.Tn細胞より，転移能を有する亜株の分離を試み，親株と亜株の遺伝子発現の相違を検討した。**【方法】**Invasion chamberを用いたクローニングを繰り返し，遊走能の高い亜株（T.Tn-Mgr1）を分離した。また，I型コラーゲンへの接着，あるいはトリプシンに対する抵抗性を指標に，基質間，細胞間の接着力の高い亜株（T.Tn-AT1）を分離した。両細胞を異所性，同所性移植により検索し，さらに遺伝子発現の差をマイクロアレイで比較した。**【結果】**T.Tn-Mgr1は親株と差は認められなかったが，T.Tn-AT1は腫瘍原性，浸潤能ともに増強していた。T.Tn-AT1をヌードマウス食道に同所性移植したところ，癌の形成とリンパ節転移を認めた。両細胞からマイクロアレイ解析を行って，発現が3倍以上異なった発現レベルの遺伝子34個を得た。**【結論】**得られた34個の遺伝子の転移能をさらに検索することで臨床的診断法，治療法の開発に寄与できると考えている。

19. 生体肝移植チームにおける薬剤師からの情報提供

獨協医科大学病院薬剤部

○岩瀬利康，柴田秀郎，佐藤綾乃，越川千秋

【目的】

平成12年10月に栃木県内初の生体部分肝移植が，第一・第二外科を中心とした生体部分肝移植プロジェクト（チームリーダー：砂川正勝教授，実行委員長：窪田敬一教授，事務局長：藤原利男助教授）によって，緊急症例を含めた6例が無事に行われた。

薬剤部は生体部分肝移植プロジェクトの中で，必要医薬品の準備，中心静脈栄養輸液や吸入剤の無菌調製，移植後の免疫抑制剤に対する特定薬剤治療管理業務，レシピエントへの薬剤管理指導業務，医薬品情報提供などを担当した。

窪田敬一実行委員長主催で毎日行われるカンファレンスには，医師，薬剤師，検査技師，看護師などが参加し，その中で数多くの薬剤関連情報の提供が求められた。

今回，生体部分肝移植プロジェクトのカンファレンスにおいて求められた薬剤関連情報をまとめたので報告する。

【方法】

6症例のカンファレンスで求められた薬剤関連情報を抽出し，提供した情報を症例ごとに整理した。

【結果】

生体部分肝移植チームによるカンファレンスにおいて，薬剤師に最も強く求められたものは，薬剤関連情報の提供であった。特に，薬剤の副作用，薬剤間の相互作用，食品と薬剤との飲み合わせなどに関する情報が求められ，薬剤関連情報の提供件数は約180件であった。

また患者様への薬剤情報提供である入院中の服薬指導や退院時指導，退院後のおくすり相談室での対応は，患者様からも喜ばれている。

【考察】

生体部分肝移植チームから求められた薬剤関連情報の評価・整理・蓄積を続けることで，今後，臨床の場から求められる薬剤関連情報の要求に対し，より迅速で有用な情報提供が行えると考えられる。今後行われるであろう他臓器の移植においても，有用な情報と成り得ると考える。